

# 群馬県地域リハビリテーション支援センター

## ニュースレター 46号

2026.3.17

### 第1回地域支援事業の推進に向けた研修会/第23回群馬地域リハ研究会

#### 「わがまちの総合事業をどう考えるか～大東市の取組みを通して～」

本講演では、理学療法士としての専門的視点と行政の立場の双方を併せ持つ大阪府大東市長 逢坂伸子氏が、「わがまちの総合事業をどう考えるか」をテーマに、大東市における介護予防・日常生活支援総合事業の実践を紹介されました。急速に進む高齢化のなかで、地域が主体となった介護予防の仕組みづくりが求められており、本講演では、住民主体の通いの場の形成や体操活動の普及など、市民参加型の取組みを通じて高齢者の社会参加と健康維持を促進してきた大東市の事例が示されました。また、医療・介護専門職、自治体、地域住民が連携しながら支え合う地域づくりの重要性についても触れ、持続可能な地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と展望が示されました。今回は大東市長として、主に市町村、包括支援センター職員向けの講演としていただきましたが、リハビリテーション専門職にとっても多くの示唆に富んだ講演であったと思います。大東市の実践から、各地域が自らの実情に応じて総合事業を発展させていくための視点とヒントが提示されました。このことから、多くの方に知っていただきたいと考え、3名の受講者の方に感想をご寄稿いただきました。

.....感想.....

渋川地域リハビリテーション広域支援センター 井田慎子

理学療法士の市長が登壇される今回の講演会に対し、市の施策を直接伺える貴重な機会であるという期待とともに、制度への理解が及ぶだろうかという懸念を抱きつつ参加いたしました。講演の主題は、減少するマンパワーと財源の中で、いかに「介護予防」を推進し、増え続ける高齢者を支えるかという点にありました。その核心は、住民主体によるきめ細やかな訪問・通所サービスの構築です。元気な方も要介護状態の方も共に過ごせる場づくりを住民自らが進めた結果、総合事業開始前に比して予防給付費が13%にまで圧縮されたという報告には、住民の力による“まちの変化”を強く実感させられました。なかでも「専門職は、専門職でなければならない役割に専念する」という市長の言葉が深く心に残っております。買い物や掃除など、代替可能な手段があるものはそれらを活用し、専門職は独自の専門性を発揮することに注力する。この視点は、専門職としての在り方を、客観的に見つめ直す契機となりました。

近頃見かける「私たちのまちを考える・まちを変える」という言葉が改めて胸に響きました。住民の一人として地域を支えると同時に、リハビリ専門職として、訪問型サービスC等の事業を通じ、医療と介護を繋ぐ役割を担えると考えております。住民の自立に寄与する具体的な支援の実現に向け、活動していきたいと思っております。貴重な学びの機会をいただき、心より感謝申し上げます。

.....

公益財団法人脳血管研究所 理学療法士 藤田知美

今回、理学療法士として介護保険や高齢者施策を牽引されてきた大阪府大東市長の逢坂伸子先生のご講演を拝聴しました。ご講演の冒頭で先生は、総合事業の目的を問われました。総合事業を真に機能させるには「どのような地域にしたいか」という目的の明確化が不可欠です。現状、デイサービスへの依存や家事代行に終始する訪問介護は、自立支援を妨げるだけでなく、専門職の不適切な配置

を招き、人材不足を助長する要因となっています。これに対し大東市では「介護人材不足の防止」を掲げ、地域資源の整備やケアプランの抜本的見直しを行っています。地域一丸となり課題に向かう大東市の先進的な取り組みには、深く感動し多くの刺激をいただきました。特に印象深かったのは、逢坂先生の「人を動かす力」です。住民に直接アプローチし「自分のために選び、実行する」という主体性を引き出しておられました。地域の課題解決には専門職、行政、住民が同じベクトルを向き、仕組みを共に創り上げていくことが不可欠です。総合事業に関わる全ての職種が目的を共有し、そのために何が必要かを、丁寧に、戦略的に住民に伝えていく必要があると感じました。今後、理学療法士として地域リハに携わっていくにあたり、行政や他職種とより深く連携し、自身の専門性を活かして、住民のその人らしい生活を支える地域づくりに貢献していきたいと考えています。最後になりますが、多くの示唆をいただいた逢坂先生、そしてこのような機会をくださった事務局の皆様に、深く感謝申し上げます。

.....

群馬大学 理学療法士 佐藤江奈

2026年2月20日に群馬県社会福祉総合センターで「第23回群馬地域リハ研究会」が開催されました。今回は群馬県の「第1回地域支援事業の推進に向けた研修会」と合同開催で、市町村担当者への研修会であると同時に、地域リハビリテーションに関係する各専門職が、市町村の施策動向を把握し、総合事業への参画を促進するための研修会でした。

今回の講師は大阪府大東市市長の逢坂伸子先生で、理学療法士として長きにわたり大東市の介護保健や高齢者施策を牽引してこられた先駆者です。地域の実情に即した発想の転換や政策の展開により、介護保険利用と介護給付費において適正化（減少）という成果を見事になし遂げられました。

高齢者の心身機能には大きな個体差があり、地域における格差もあると思います。そのような中、地域における「お互い様」の精神を醸成し、住み慣れた地域で生活するために必要な要素は何かに気づき、的確に補うことを見事に成功されました。これは、介護保険事業の適切な利用につながり、また民間事業所の収益確保と自立支援という二律背反する課題も解決されました。

私は介護予防事業に関わらせていただく中で、地域による状況は様々であると感じております。視点を変えることの重要性を再認識いたしました。今回の学びを通じ、私自身も今後の介護予防事業において、単なる手法の改善に留まらず、地域そのものを育成するという視点を念頭に置いた関わりをより一層心がけてゆきたいと思います。

## 地域リハビリテーションに関するエビデンス研修会 感想

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法専攻 大山 永晃

2月26日の研修会では、高崎健康福祉大学の篠原智行先生より「フレイル予防・地域ケア会議に関するエビデンス」、群馬大学医学部附属病院の小原透先生より「地域在住高齢者の聴力に関するエビデンス」についてご講演いただきました。

篠原先生のご講演では、地域ケア会議について個別課題や地域課題を発見し、それらを解決するためのネットワークを構築して、地域づくりや資源開発をしていくことの重要性を再認識しました。フレイル予防に関しては、遠隔介入のみではなく、実際に人と人が関わることの意義を学ぶことができました。また、後期高齢者の質問票にも含まれる咀嚼や嚥下機能の評価がフレイル予防に重要であることも印象に残り、今後の対象者評価の際にはしっかりと確認したいと思います。さらに、筋肉量だけでなく位相角を用いて筋質を評価するなど、ミクロな視点も大変興味深いものでした。

小原先生のご講演では、音が欠けた状態で脳に届くと、脳がそれを必死に補うために過剰な負荷がかかる「リスニングエフォート」のお話が印象的でした。また、難聴の自覚があっても受診率が低いという現状が紹介され、地域の予防に関わる様々な専門職が難聴のリスクを正しく理解し、対象者に伝えていくことの大切さと、早期に地域で関わる意義を深く実感することができました。補聴器を使用するだけでなく、このリスニングエフォートを下げるためにも「コミュニケーション方略」が重要であり、話し手ができる工夫や会話環境の調整などに配慮しながら、対象者と関わっていきたいと感じています。

今回の研修会を通し、地域リハビリテーションにおいては、多職種連携を図り、様々な視点から対象者を支援していくことが重要であると改めて認識いたしました。最後に、貴重なご講義をしてくださった先生方、ならびに運営の皆様へ心より感謝申し上げます。

.....

株式会社アースケア 理学療法士 小林佑香

今回、群馬医療福祉大学の山口先生より「地域リハビリテーション全般に関連する認知症エビデンス」、村山先生より「転倒（予防）関連のエビデンス」についてご講演いただきました。

まず、山口先生のご講演では、認知症は予防するものではなく、リスク低減を図りながらいかに共生していくかという視点を持つことの重要性が強く印象に残りました。日頃のリハビリテーションの中でも認知症の利用者様と関わる機会が多いですが、これまでは認知症と“共生していく”という視点をはっきり持てていなかったように思います。専門職として、認知症に対してその段階に合わせた介入を行うと同時に、認知症と共生できるよう地域社会に対しても認知症への正しい知識を広めていく必要があると感じました。

村山先生のご講演では、転倒予防に対して、身体機能のみならず環境や心理面を含めた多面的・多角的な介入をしていく重要性を学びました。また、安全性ばかりを優先して環境調整や活動制限を行うのではなく、万が一転倒した場合を考慮しての環境調整や関わり方の重要性も学び、現場でリスク管理を考える上で大切な視点にしていきたいと感じました。

今回のご講演を通して、理学療法士としてエビデンスに基づいたアプローチを基盤にしながらも、目の前の対象者がその人らしく充実した生活を送れるよう支援するという視点の重要性を再確認しました。技術的な側面だけでなく、地域リハビリテーションに携わる専門職としての倫理観についても見つめ直す貴重な機会となりました。ありがとうございました。

## 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会支援センター会議

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

令和8年3月5日（木）16:00より、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会支援センター会議がオンラインで開催されました。「地域リハビリテーションの現状と今後について」と題した厚生労働省老健局老人保健課の松岡美咲高齢者リハビリテーション推進官の講演があり、厚生労働省のオーラルフレイルなど今後の地域リハビリテーションの方向性を知ることができました。続いて、山梨県、熊本県、岩手県3県の地域リハビリテーション推進の活動報告がありました。群馬県としては、山梨県の取り組みが参考になると考え、今後、山梨県の実務者と連携をとって群馬県の地域リハビリテーション支援体制に取り込みたいと考えております。



## 群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議 会定例会議

群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会副会長 山路雄彦

令和8年3月4日(水)19:00より、群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会(以下、協議会)の定例会議がオンラインで開催されました。群馬県医師会をはじめ16団体の皆様にお集まりいただきました。協議会の和田直樹会長(群馬大学医学部教授)の挨拶から始まり、副会長の山路(群馬県地域リハビリテーション支援センター長、群馬県PT・OT・ST連絡協議会長)より主に群馬県地域リハビリテーション支援センター(以下、県地域リハ支援センター)の活動を報告して、最後にご意見を伺いました。

この協議会は、前身の群馬リハネットの形を引き継いだものです。現在の構成団体は以下に示すとおり27団体となっております。

以前は群馬リハネットが委託を受けておりましたが、解散にともない、県地域リハ支援センターは群馬県PT・OT・ST連絡協議会が、群馬県より委託を受けております。地域リハビリテーションは、PT、OT、STのみで行われるものではありません。これらのことから、年度末に協議会の皆様にお集まりいただき、県地域リハ支援センターの活動を報告してご意見を伺うことになりました。

今後も本協議会の趣旨をご理解いただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、参加希望の団体がありましたら、県地域リハ支援センターにお問い合わせ下さい。

### 【構成団体27団体(教育機関以外は50音順)】

群馬県医師会、群馬県医療ソーシャルワーカー協会、群馬県介護支援専門員協会、群馬県介護福祉士会、群馬県看護協会、群馬県言語聴覚士会、群馬県作業療法士会、群馬県地域包括・在宅介護支援センター協議会、群馬県歯科医師会、群馬県歯科衛生士会、群馬県柔道整復師会、群馬県鍼灸師会、群馬県鍼灸マッサージ師会、群馬県栄養士会、群馬県病院協会、群馬県訪問看護ステーション連絡協議会、群馬県ホームヘルパー協議会、群馬県理学療法士協会、群馬県立障害者リハビリテーションセンター、群馬県老人福祉施設協議会、群馬県老人保健施設協会、日本健康運動士会群馬県支部、ノーサイド、群馬医療福祉大学ハビリテーション学部、群馬大学大学院保健学研究科、群馬パース大学リハビリテーション学部理学療法学科、高崎健康福祉大学

### 群馬県地域リハビリテーション支援センター

事務局便り

(2025年12月～2026年3月)

- 12/25 ニュースレター45号発送
- 2/20 第1回地域支援事業の推進に向けた研修会/  
第23回群馬地域リハ研究会
- 2/26 地域リハビリテーションに関するエビデンス研修会1
- 3/5 都道府県リハビリテーション支援センター会議
- 3/6 地域リハビリテーションに関するエビデンス研修会2
- 3/16 第28回群馬県地域リハビリテーション協議会
- 3/17 ニュースレター46号発行

### 編集デスク

山路雄彦

山上徹也

角田祐子

### 発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

<https://www.grsc.biz/>